

令和6年度良好な環境創出活動推進モデル事業

**さめがわ良好な環境活動推進事業
報告書**

**2025年2月
福島県鮫川村**

I . 活動地域～地域の特徴と活動背景・取組～	
・活動地域の特徴と概要 P 3～4
・これまでの活動の内容・取組 P 5～6
II . モデル事業の実施内容	
・モデル事業ねらい・目標と概要 P 8
・モデル事業実施体制 P 9
・モデル事業フィールドと取組の展開イメージ P 10～11
・モデル事業実施スケジュール P 12
・事業内容① P 13
・事業内容② P 14
・事業内容③ P 15～16
・事業内容④ P 17
III . 成果と今後の課題・展望	
・モデル事業の成果と期待される波及効果 P 19
・令和6年度モデル事業で創出された良好な環境 P 20
・今後の課題と展望 P 21～24

I. 活動地域

～地域の特徴と活動背景・取組～

活動地域の特徴と概要

● 鮫川村の概要：

- 成り立ち 1889年（明治22年）に7つの村が合併
135年間「村」の姿を維持
- 自然 面積 131.3km² 標高 420m（役場）
平均気温 11.0℃
村の花 やまゆり 村の木 しらかば 村の鳥 キジ
- 人口など 人口 2,828人（令和6年12月1日 住民基本台帳）
世帯数 1,038帯 高齢化率43.8%
- 主な産業 農業（水稻、繁殖肉用牛、そ菜等を組み合わせた複合経営）
林業（杉材、木炭）※木炭生産量は福島県1位
農家数 461戸（2020年農林業センサス）
- 観光施設 鹿角平観光牧場、江竜田の滝
強滝、天狗橋
村民保養施設「さぎり荘」
日本低名山100選「朝日山」



鮫川・久慈川・阿武隈川の源流部に位置し、美しい里山景観を形成



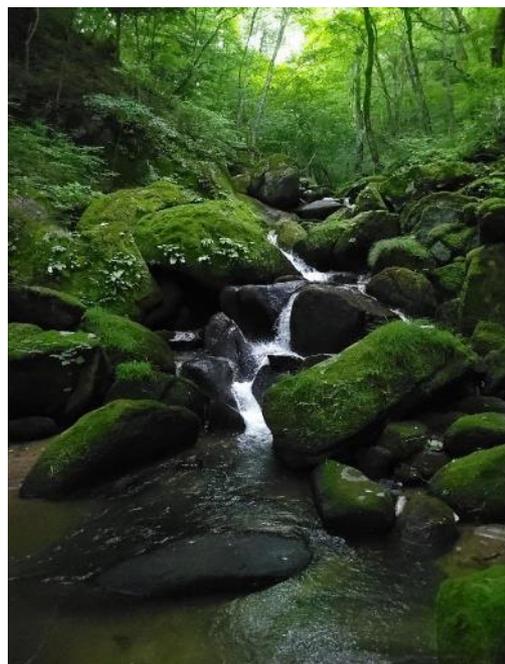
江竜田の滝 そうめんの滝

● 地域資源：

- 貴重な水生生物が生息している。国蝶オオムラサキも飛び交っており、村の小学校では観察会を開催している。
- 雑木林が多く残っており、炭焼きや薪採取、楮栽培からの和紙漉きなどの里山文化がある。
- 天文台がある鹿角平観光牧場（牧草地/キャンプ場）では人工光がなく肉眼で6等星まで見える。



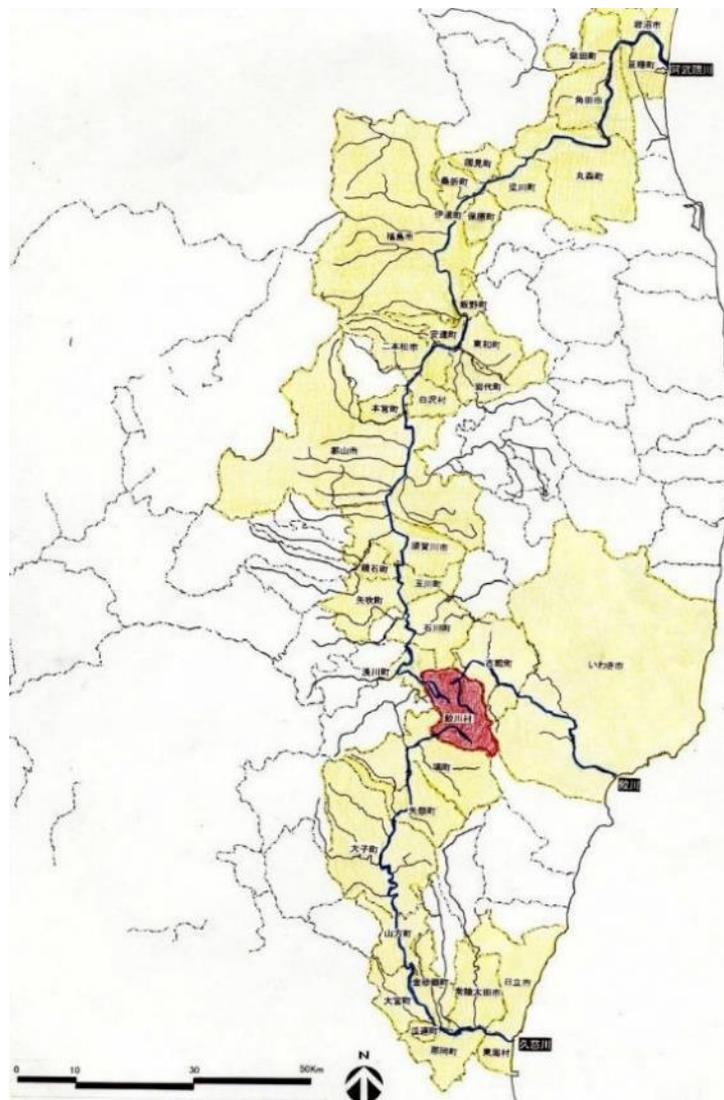
鮫川小学校での水生生物観察会



天狗橋の溪流



鹿角平観光牧場（牧草地/キャンプ場）



鮫川村の源流域図

●「まめで達者な村づくり」

- 平成16年から「まめで達者な村づくり」として、高齢者の健康づくりによる医療・介護サービス料の削減や遊休農地解消等のため、大豆の栽培を奨励し村が全量買い取りを実施。

<表彰>

- 第12回グッドライフアワード
環境大臣賞（自治体部門）受賞



鮫川村は「第12回グッドライフアワード」環境大臣賞を受賞しました！

～まめで達者な村づくり～



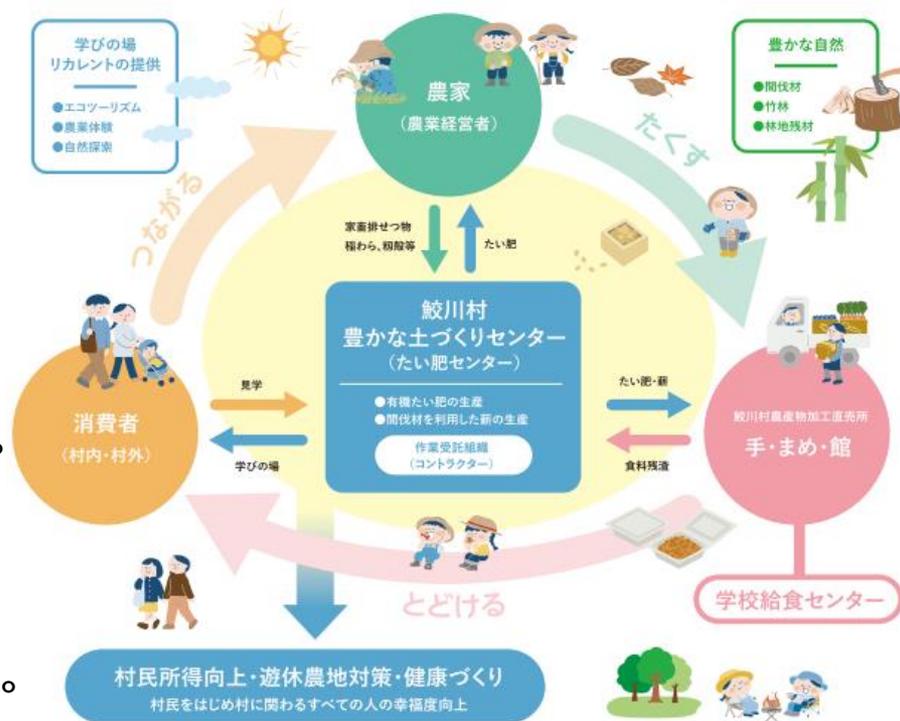
食料自給率の向上・農業の6次産業化

商工会との連携

定住人口の増加

● 「バイオマスヴィレッジ構想」

- 鮫川村豊かな土づくりセンター「ゆうきの郷土(さと)」が完成（平成24年度）。村内の牛糞、落ち葉等から良質たい肥を製造し、販売。
- 木質バイオマス利活用～薪ステーションを設置。村民保養施設「さざり荘」の温泉昇温に「薪ボイラー」を導入。
- 食用油の廃油からバイオディーゼル燃料を精製。



Ⅱ. モデル事業の実施内容

● モデル事業のねらい・目標

これまで源流の里鮫川村の、「まめで達者な村づくり」「バイオマスヴィレッジ構想」により育まれた豊かな自然環境について、以下の危機感がある。

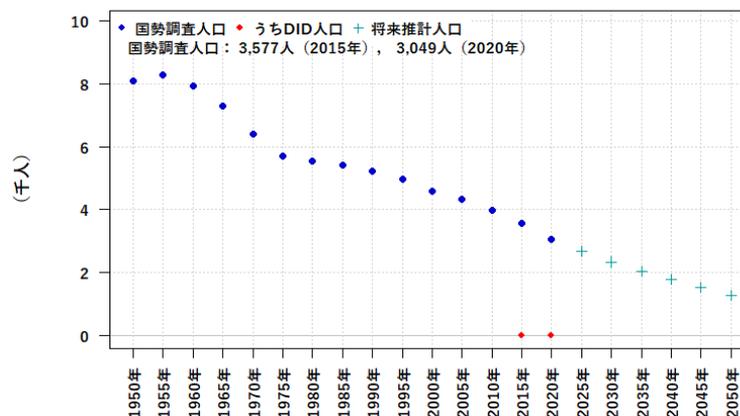
- 豊かな里山自然環境を語る上でのエビデンス不足（目撃情報はあるが、どこにどのような水生生物等が存在しているのか数値データやマップがない。）
- 水資源保護や環境保全に関わる者の高齢化と担い手不足による活動量の低下
- 人口減少、少子高齢化が進み村民に余裕がなくなる中での里山自然環境に関する村民関心の低下（水資源や生物多様性、満天の星空などの価値をとらえきれていない）

● 取組概要

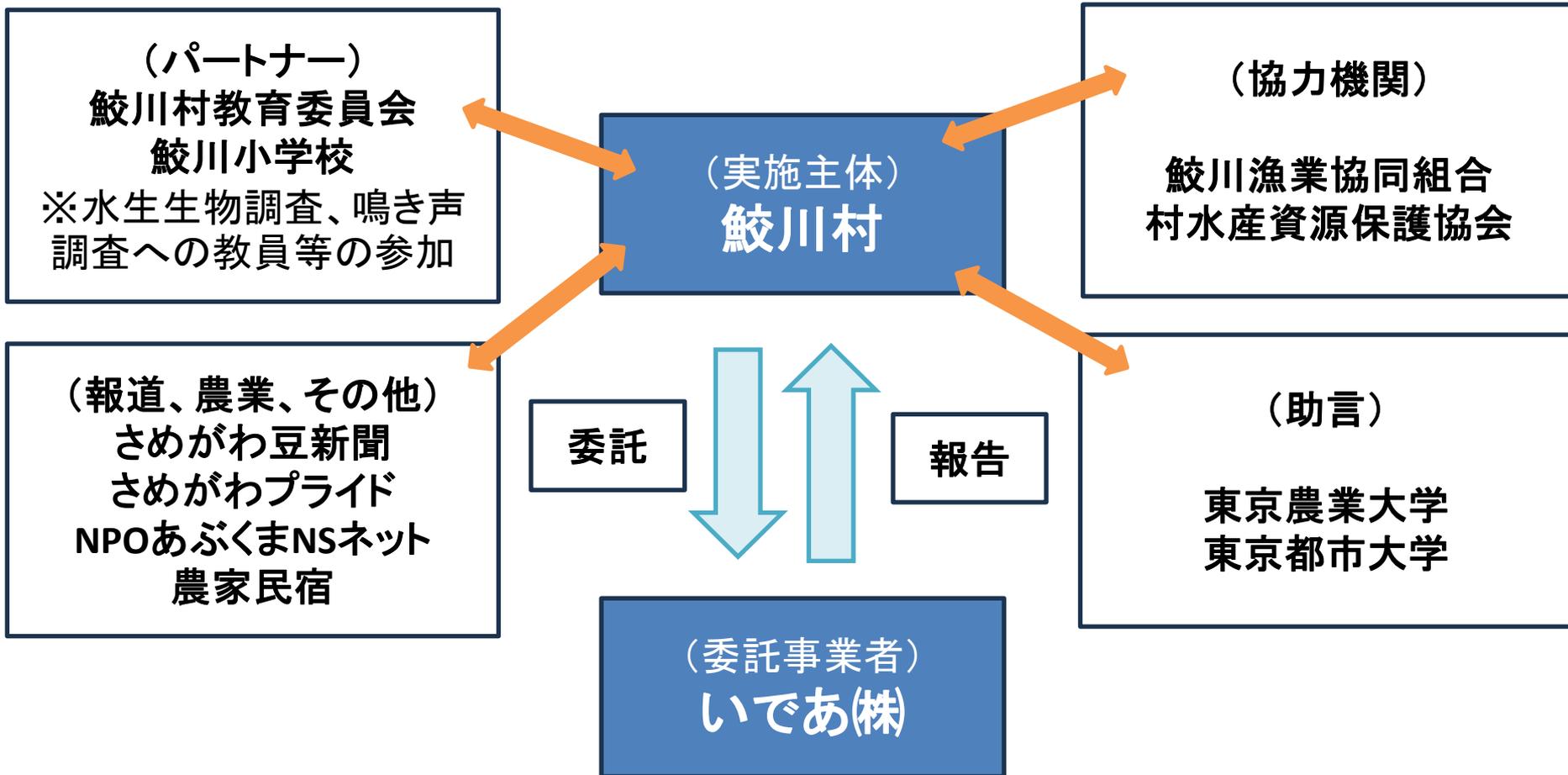
- ① 統計的因果推論（うち、構造的因果モデル（SCM）による因果探索）を用いた村民の村への愛着や定住意欲に与える豊かな自然環境の寄与に関する定量評価
- ② 水生生物環境DNA調査【村内10カ所】
- ③ 水生生物（特に両生類や水辺の鳥）の鳴き声調査（音声データ取得）【村内4カ所】

⇒ 関係人口創出や環境教育、定住、村の愛着の向上に資する施策へと活用

福島県鮫川村の国勢調査人口の推移と将来推計人口（5年ごとの10月1日）及び国勢調査人口集中地区（DID）人口（2015年、2020年のみ）



総務省統計局「国勢調査」、同「統計でみる都道府県・市区町村のすがた（データベース）」、統計情報研究開発センター・日本統計協会編（2005）『市区町村人口の長期系列』、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」などを基に作成（大林）
注：2020年10月1日現在の境域によっている（遡及は正確でない場合がある）



● 取組の展開イメージ

- 源流の里鮫川村の、「まめで達人な村づくり」「バイオマスヴィレッジ構想」により育まれた豊かな自然環境について、取得した調査結果やデータを生物多様性地域戦略と併せて使用することで、関係人口創出や環境教育、定住、村の愛着の向上に資する施策へと活用。
- 一過性のイベントによる地域振興に留まらず、データに基づいたエビデンスを整備・獲得し、自然環境の価値の「見える化」により、定量データを活用した息の長い施策展開を目指す。

令和6年度の取組み

豊かな自然環境のデータに基づいたエビデンスを取得し、鮫川村の自然環境が村民の愛着や定住意欲にどのように寄与しているか、水生生物の種や生息地を把握する。

また関係人口の構築分野では、保育園留学などの新たな取組を通じて、首都圏からのファミリー層を巻き込み、村の活性化につなげる体系化を開始しており、取得した自然環境のデータを活用した効果的な広報を検討する。

希少な生物の把握により、「鮫川村に生息する希少野生動植物を保護する条例」の制定につなげる。また、年度内にネイチャーポジティブ宣言及び30by30アライアンスの登録を目指す。

● 取組の展開イメージ

鮫川村人口ビジョン、まち・ひと・しごと戦略「まめで達者な村づくり」

鮫川村デジタル田園構想

環境と共生した持続可能な村づくり

村の良さを継承する暮らし方、現代の生活様式との調和、「こども・若者・女性」と都市の人々に共感される暮らし方、人口減少社会に適応した暮らし方

地域循環システムの確立

バイオマスヴィレッジ構想

遊休農地の解消・農業の振興

- ①豊富な畜産たい肥を生かした土づくり「鮫川村豊かな土づくりセンター」の整備
- ②木質バイオマスの活用
- ③廃食油の有効活用
- ④資源作物によるアルコールの開発

オーガニックヴィレッジ宣言

有機農業を通じた村民の健康増進と幸福度の向上

- ①消費：給食「鮫川小学校」「さめがわこどもセンター」での利用、「手・まめ・館」直売所での販売等
- ②生産：有機農業にまともって取り組む地域の形成、堆肥など有機資材の供給体制の整備・集出荷体制の構築
- ③加工・流通：有機農産物を原料とした地場加工品の製造、地域の外食や旅館などでの利用

地域循環システムの構築

良好な環境の創出

本事業

- ①統計的因果推論を用いた村民の村への愛着や定住意欲に与える豊かな自然環境の寄与に関する定量評価
- ②水生生物環境DNA
- ③水生生物（両生類や水辺の鳥）の鳴き声調査

新たな取組との連携

関係人口の創出

鮫川村保育園留学

1～2週間、自然豊かな環境で子どもを保育園に通わせながら地域に家族で滞在する暮らし体験を提供。
村の経済活性化、村の子供達の地域外の子供との交流、関係人口の増加などを目指している。

地域を連結した一体的な保全モデルの構築

良好な環境の創出に貢献

「鮫川村に生息する希少野生動植物を保護する条例」の制定

ネイチャーポジティブ宣言・30by30アライアンス

地域資源の保全と村民との共生社会の実現

事業内容：①統計的因果推論を用いた村民の村への愛着や定住意欲に与える豊かな自然環境の寄与に関する定量評価

● 実施内容

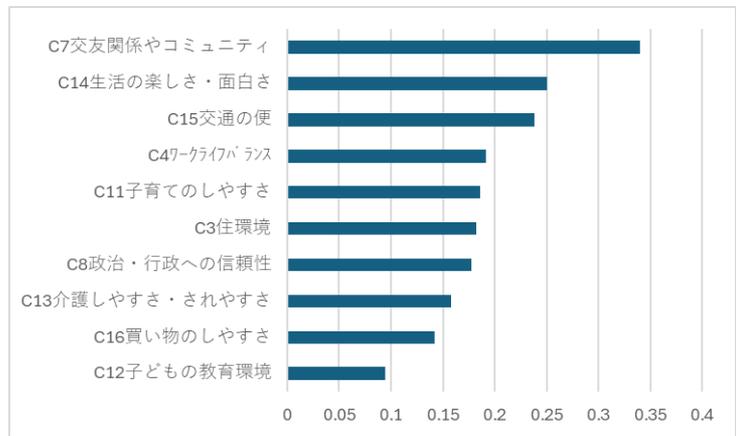
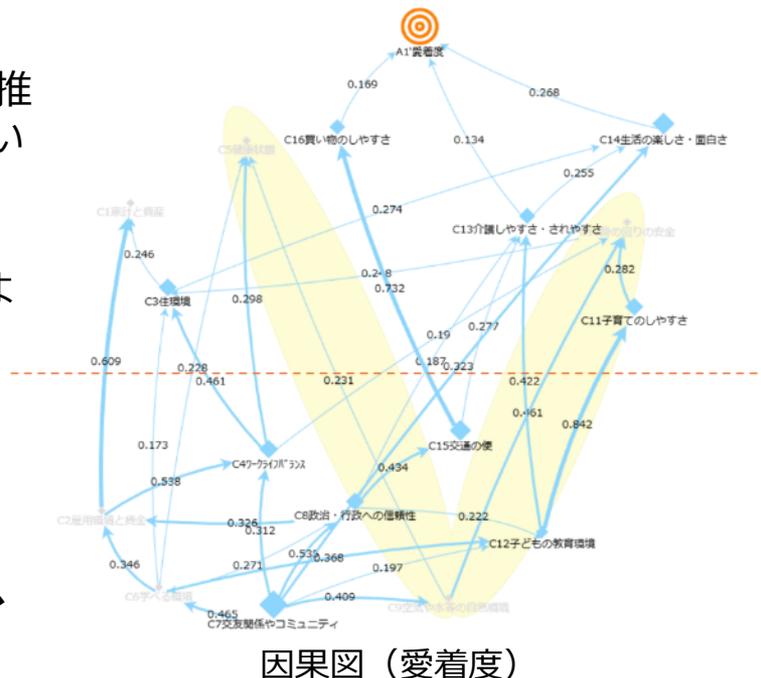
- 全村民対象の村民アンケート調査結果を活用し、統計的因果推論（うち、構造的因果モデル（SCM）による因果探索）を用いた分析を行う。
- 具体的には、鮫川村の自然環境などが地域への愛着度や定住意欲とどのような因果関係にあるかを分析する。また、本分析により獲得目標（アウトプット）と目指す姿（アウトカム）をつなぐ。

※ 本手法は、AIを用いた統計的分析手法であり、これまでの分析では表現できなかった因果関係を定量的に分析するもの。

● 実施成果

- **愛着度**に最も影響を与える因子は【**交友関係**】、【**コミュニティ**】、【**生活の楽しさ**】、【**面白さ**】、【**交通の便**】等であった。主要因子の中に、空気や水等の【自然環境】は含まれていなかった。
- **居留意欲**に影響を与える因子は、【**交通の便**】、【**買い物のしやすさ**】、【**政府・行政への信頼性**】、【**学べる環境**】の4因子
- 鮫川村村民アンケートの分析結果からは、いずれの結果が正しいかを判断することは困難であった。A Iを用いた統計的分析手法を活用するにあたっては、分析に供するデータセットの作成段階から検討が必要である。

※ 分析に使用した村民アンケート調査の選択肢が11段階評価であり、回答の多くが中間の「5」に集中する形となっており、本手法の分析に影響を与えた可能性がある。



主要因子（愛着度）

事業内容： ②水生生物環境DNA調査

● 実施内容

- 鮫川村内の河川やため池など10か所で採水を行い、環境DNA分析を実施。これらの水環境に生息する水生生物の種同定を行う。
- 鮫川村の自然を代表する魚類のみならず、両生類などの生物相を把握する。

● 実施成果

- 魚類 5目7科22種類
- 両生類 1目1科1種類
- 昆虫類 12目65科144種類



ため池の環境DNA調査



さめがわむら
鮫川村
SAMEGAWA VILLAGE
に棲むいきもの (魚類編)

鮫川村は、貴重な魚類の宝庫です!!!

2024年秋、村内10か所で調査を実施した結果...

- 合計22種類の魚類の生息を確認
- うち10種類は環境省や福島県が「絶滅が惧される種」としている魚類に該当!!

- 魚を触ったとき、「ぬるぬるしているな」と思ったことはありませんか？
- 川の水には、魚から出てくるいろいろなもの（ぬるぬる成分や糞など）が溶け込んでいます。このような川の水を汲んで、特別な分析かけると、そこにどのような魚が生息しているか、特定できる技術があるのです（環境DNAと言います）。

リーフレットの作成

事業内容：③水生生物（両生類や水辺の鳥）の鳴き声調査 15

● 実施内容

- 鮫川村内の河川や水田周辺の数か所において、收音マイクを設置し、周辺の生物の鳴き声を記録する。
- ICレコーダーに記録されたデータを整理。分析手法についてはAIによるソナグラム作成により、音声を画像化し、類似する波長帯などを判定し、種判別を行った。

● 実施成果

- 合計4目15科23種の鳥類が確認された。
- そのうち、
重要種としてアオバトの1種、
特定外来生物としてガビチョウの1種
が確認された。



鹿角平観光牧場の機器設置状況

事業内容：③水生生物（両生類や水辺の鳥）の鳴き声調査 16

●実施結果

No.	目和名	科和名	種和名	学名	重要種の選定基準				特定外来生物
					天然記念物	種の保存法	環境省 RL 2020	福島県 RL 2022	
1	キジ目	キジ科	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>					
2	ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>					
3			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>				NT	
4	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>					
5			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>					
6	スズメ目	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>					
7		カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>					
8			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>					
9			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>					
10		シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>					
11			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>					
12		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>					
13		ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>					
14		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>					
15		チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>					○
16		メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>					
17	カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>						
18	ヒタキ科	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>						
19		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>						
20		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>						
21	アトリ科	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>						
22		イカル	<i>Eophona personata</i>						
23	ホオジロ科	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>						
計	4目	15科	23種類	—	0種類	0種類	0種類	1種類	1種類

◻ 希少種

事業内容：④ 保育園留学リーフレットの作成

● 実施内容

- 関係人口の構築分野では、保育園留学などの新たな取組を通じて、首都圏からのファミリー層を巻き込み、村の活性化につなげる体系化を開始
- 取得した水生生物の調査データを活用し、「保育園留学」のリーフレットを作成

● 実施成果

- 今後も、関係人口創出や環境教育、定住、村の愛着の向上に資する施策へ、本事業で得られた自然環境データを効果的に活用

さめがわこどもセンター ってどんなところ？



**たくさんおかわり
手づくり給食**

さめがわこどもセンターは毎週日曜日で手作りしています。「さめがわおかわり給食」を贈る数回村で穫れた大葉をはじめ、地産の食材をふんだんに使っています。

お友は、化学合成調味料や着色料や化学調味料を無添加の基準に厳選して厳選した新鮮な野菜の「野菜給食」も提供。食むての栄養はあがりやすい給食です。給食は園の近くの地元産菜園さんと一緒に作った野菜がメインとなった給食も取組まれます。月ご一紙、栄養士からの食育指導もあり、作り手の思いを一緒に味わって頂きたいです。



**地域との
つながりを大切に**

村で農業を営む若手農家の団体「さめがわアライド」や地域資源課とササキジャーの導入隊「ははらんジャー」、老人クラブなど地域の力に支えられていますが、物産の輸出・村の発展、子育てなど多岐にわたる取組を行っています。またお友は、小さなことから家族以外の大人と触れ合うことで社会的なコミュニケーションの場が広がります。

さらに本会では地域の有志ボランティアと一緒に働き、プレゼントも届けていきます。

**子どもの感性を
のびのびと育む**

元々の好奇心溢れる園で自然と自然の力を活かして遊ぶことで、自然環境が自然と身につくよう取り組んでおり、のびのびとした感性豊かな子どもを育てたいと考えています。お友達は、のびのびとした感性豊かな子どもを育てたいと考えています。お友達は、のびのびとした感性豊かな子どもを育てたいと考えています。



子どもたちが笑顔で遊ぶ様子。

体験いろいろ！ さめがわを満喫しよう

中心内容	体験メニュー	金額	体験時期	体験日	対象年齢	人数
農 林 産 品 を 満 喫 す	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
水 の 生 活	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度
	自然村 (1人)	小学 1,000円 / 小児 500円 / 大人 1,000円	随時	毎月第1日、第3日	小学生以上	10名程度

村では、農産物の産出を促進できるさまざまなメニューをご用意しています。農産物ならではの体験を通して、数回村だけの思い出を作ってください。

村での生活をサポートします

数回村では関係人口創出コーディネーターを配置し、保育園留学などで村内を訪れた皆さんをサポートしています。数回村の紹介や滞在のお問い合わせにも対応します。安心して村内での生活を過ごしてください。

体験メニューの詳細やお問い合わせは、関係人口創出コーディネーターが対応します。お気軽にご連絡ください。体験メニューは村ホームページで受付しています。



数回村は貴重な魚類の宝庫

数回村の自然の恵みを生かして、およそ20本の支流を流す上質な清流の数回村。上質な水質に恵まれた環境に生息する貴重な魚類が数多く生息しています。

2024年に村内10ヶ所で調査を行った結果、合計22種類の魚類の生息が確認され、うち10種類が環境省や農林省が「激減が懸念される魚種」としている魚類であることが分りました。

遊泳魚

- 数回村の代表魚として人気のヤマメ、イワナ
- 数回村のイワナは「ニッコウイワナ」で、純正水魚。
- 河川に生息する貴重な魚種。
- ここにもいるフナだが、村には生息している可能性。

底生魚

- 数回村の代表魚として人気のヤマメ、イワナ
- より水の流れの遅い河川に生息している。
- 数回村のイワナは「ニッコウイワナ」で、純正水魚。
- 河川に生息する貴重な魚種。
- ここにもいるフナだが、村には生息している可能性。

リーフレットの作成

Ⅲ. 成果と今後の課題・展望

令和6年度の実施

- 豊かな自然環境のデータに基づいたエビデンスを取得し、これまで明確に把握できていなかった水生生物の種や生息地を把握できた。AIを用いた統計的分析手法による、豊かな自然環境が村民の村への愛着や定住意欲に与える定量評価については、アンケート項目の見直し等の検討が必要である。
- 関係人口の構築分野では、保育園留学などの新たな取組を通じて、首都圏からのファミリー層を巻き込み、村の活性化につなげる体系化を開始した。
- 希少な生物の把握により、「鮫川村に生息する希少野生動植物を保護する条例」を制定することができた。また、年度内にネイチャーポジティブ宣言及び30by30アライアンスの登録を目指す。



期待される効果

- 鮫川村では、村の豊かな自然環境が織りなす「水資源の重要性」や「生物多様性」など、実体験を通して学べる環境にあるため、今回のモデル事業を活用してデータを収集し、地固めを行った結果、多様性に満ちた子どもたちの教育にさらに拍車がかけられる。
- データに基づくエビデンスの獲得を村民に周知していくことで、村民の村への愛着や充実感、さらには、関係人口創出に係る村の武器のひとつになる。
- これらのデータを基に、単に自然環境を守る施策ではなく、なぜ水資源をはじめとした豊かな自然環境(里山環境)を守り繋ぐ必要があるのかを村民に分かりやすく示すことにより、人口減少に対応した社会システムの構築や今後の事業展開に厚みを持たせるとともに、企業から村への投資呼び込みにつなげていく。

令和6年度モデル事業で創出された良好な環境

村民一人ひとりが
村の持つ魅力を再認識

村民



農業を通じた
村民の健康増進と
幸福度の向上



良好な環境の創出

まめで達者な村づくり、
バイオマスヴィレッジ構想に
よる環境への影響を見える化



村全体の"さめがわ"の
ブランド化の構築

まめで達者な村づくり

まめで達者な
村づくりの拠点
「手・まめ・館」



地産地消の推進
特産品「鮫川ブランド品」

連携

オーガニックビレッジ・
バイオマスヴィレッジ構想

豊かな土づくりセンター

畜産業の廃棄物
たい肥を収集した
「有機完熟たい肥」の製造

廃食用油の回収によるバイオ
ディーゼル燃料の精製

木質バイオマスの活用の中
薪ボイラーによる加温

保育園留学の促進
環境教育への活用

さめがわこどもセンター・
鮫川小学校

地産物の
学校給食への活用

交流人口・関係人口の拡大

村外の人々



村民保養施設「さざり荘」



村民の保養

地域循環システムの確立

令和6年度モデル事業を踏まえて、 今後、鮫川村では独自事業を展開

- ① 鮫川村に生息する希少野生動植物を保護する条例の制定（令和6年度）
- ② ネイチャーポジティブ宣言及び30by30アライアンスの登録（令和6年度）
- ③ 春夏バージョンの生き物調査（令和7年度）
- ④ さめがわ生き物図鑑の作成（令和7年度）
 - ・認定こども園や小中学校、図書館への配付
 - ・保育園留学など関係人口創出事業に活用
- ⑤ オーガニックビレッジ宣言（令和7年度）
- ⑥ 民間団体との連携、民間団体の育成



鮫川小学校生き物調査



鮫川での「釣り大会」の様子



強滝

令和7年度(前期)の取組

- 「春・夏」の生物の把握のため鮫川村内の河川や水田等で採水を行い、環境DNA分析を実施する。
- 水環境に生息する水生生物の生物相を把握するとともに、收音マイクを設置し、周辺の生物の鳴き声を記録する。

令和7年度(後期)の取組

(1)鮫川村の生き物図鑑の作成

- 令和6年及び令和7年前期の調査結果をもとに、定住施策の推進や村の愛着の向上に資することを目的として、鮫川村内に生息する代表的な生物(魚類、両生類、水生昆虫類、鳥類)の簡易的な図鑑を作成する。
- 作成にあたっては、地域の環境教育等に用いるため、分かりやすさに留意するとともに、小学生が持ち歩くことを念頭に、A5版のコンパクトサイズを想定。

(2)教育委員会との連携

- 村が主催する子供向け環境イベントや、学校の自然環境教育において、結果をわかりやすく紹介していく。

(3)オーガニックビレッジ宣言

- 「まめで達人な村づくり」「バイオマスビレッジ構想」をさらに深化させ、環境に配慮した有機農業を推進する。その際、自然共生サイトへの登録も検討する。

令和8年度以降の取組み

(1) 保護活動民間団体の育成と支援

- 村内の自然環境保護団体等との連携を強化し、希少な野生動植物の生息及び生育しやすい環境整備を始める。

(2) 生物多様性地域戦略に基づく事業の展開

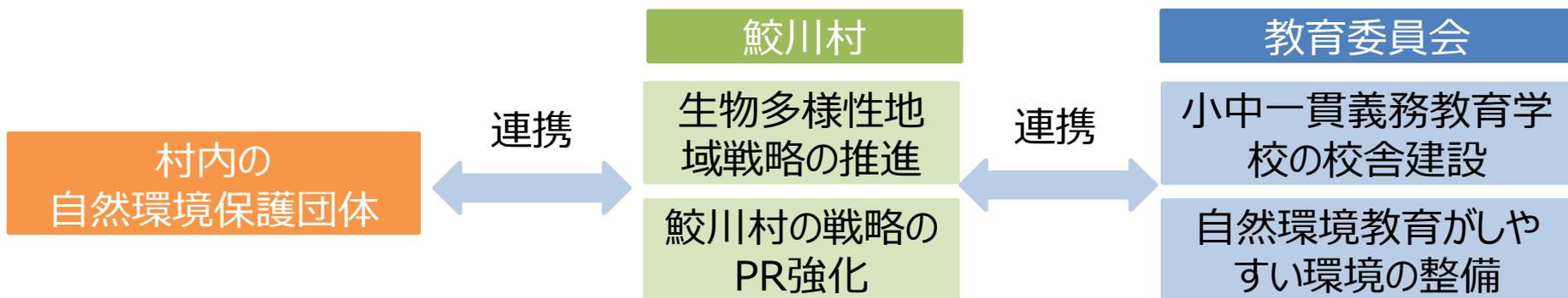
- 生物多様性地域戦略に明記した事業の推進と村の戦略のPR強化を実施

(3) 教育委員会との連携

- 小中一貫義務教育学校の校舎建設に伴い、自然環境教育がしやすい環境整備を図る。

(4) 定期的実施している住民アンケート手法の変更

- AIを用いた統計的分析手法による、豊かな自然環境が村民の村への愛着や定住意欲に与える定量評価については、アンケート項目の見直し等を実施し、AIを用いた統計的分析手法にあった検討をし、事務効率化を見据えた対応が必要である。



以上の取組により、

鮫川村は
美しい里山環境を維持
しつつ、
人々が住み続けられる
持続可能な地域社会の
実現を目指します。

